

宇治市都市計画マスタープラン

意見交換会(全地域対象)

令和3年10月30日(土) 開催



宇治市都市計画マスタープランの役割

実現すべき都市の将来像を明確にする

市民の合意に基づく都市計画を進めるため、様々な地域特性を踏まえ市民の意見をいかながら、**将来のまちの姿や都市づくりの方針を「実現すべき都市の将来像」として明確にします。**

都市計画の決定・変更の指針となる

マスタープランは、今後展開していく様々な都市計画の基礎となります。したがって、土地利用や道路、上下水道、公園などの都市施設に関する**都市計画が決定・変更される**ときの指針となります。

都市づくりを進めるための指針となる

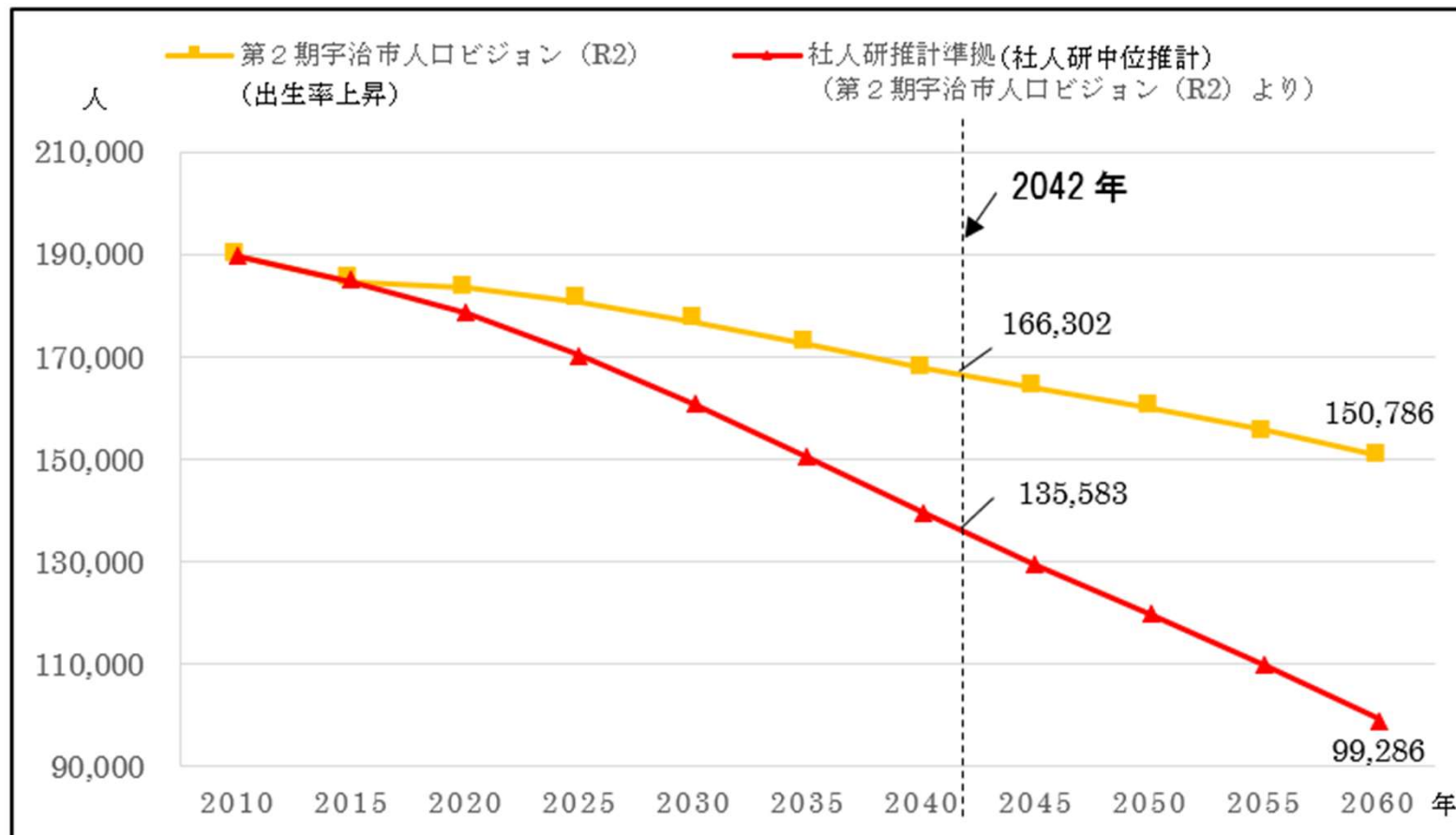
マスタープランで示す将来像に基づき、**土地利用や都市施設などに係る各種都市計画の整合性を図るための指針**となります。

市民と行政の協働を積極的に推進する

市民と行政の協働を積極的に推進するため、可能な限り情報を提供するとともに、市民のまちづくり活動を支援します。

宇治市の現状と課題 ① 【人口減少】

■ 宇治市の人口は2011（平成23）年をピークに減少に転じています



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2040年	2042年	2050年	2060年
第2期宇治市人口ビジョン (R2)	189,609	184,678	183,546	180,837	176,917	167,893	166,302	159,938	150,786
社人研推計準拠	189,609	184,678	178,465	170,329	160,718	139,549	135,583	119,719	99,286

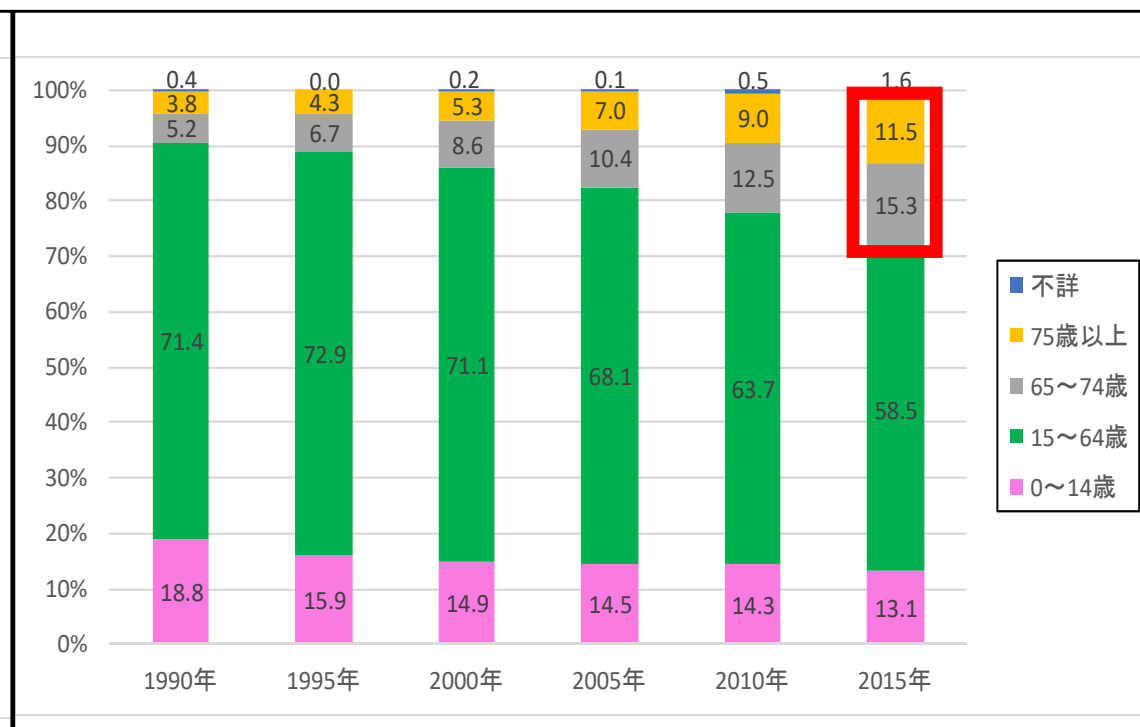
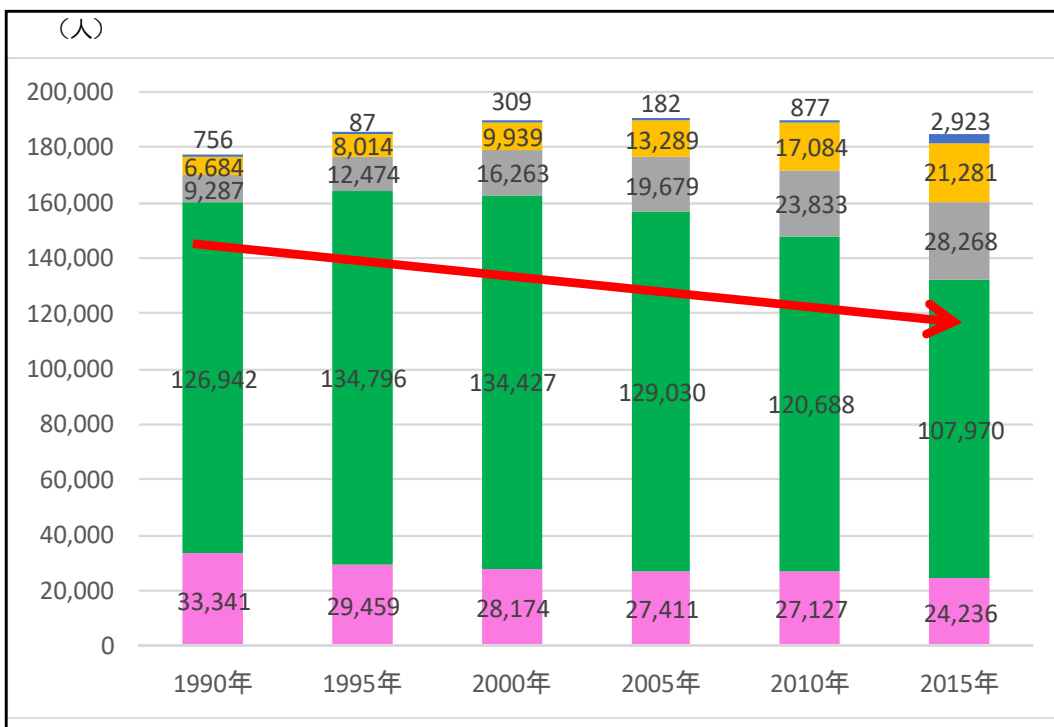
資料：第2期 宇治市人口ビジョン

宇治市の現状と課題 ② 【少子高齢化】

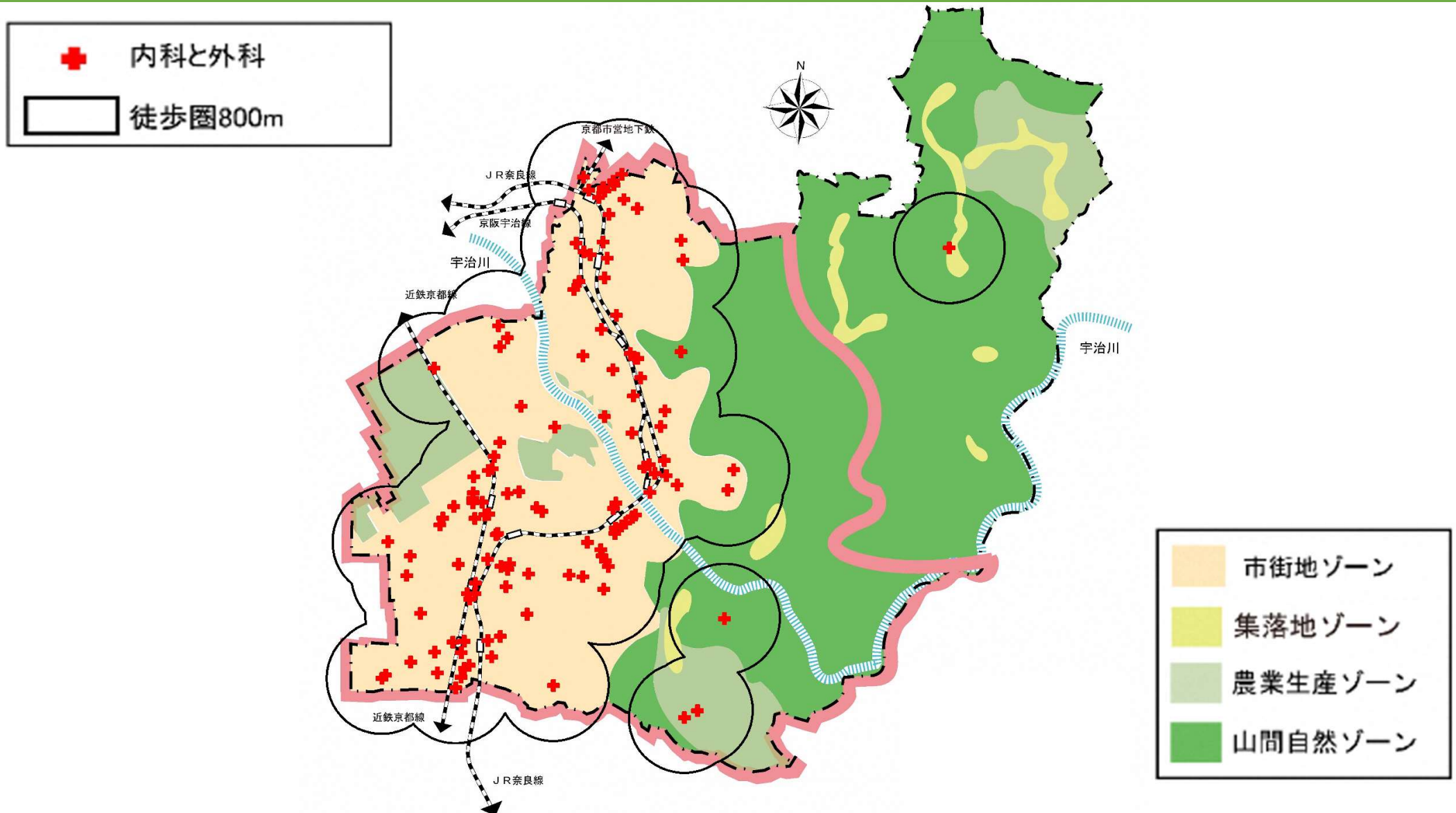
- 65歳以上の高齢者の比率は、2015（平成27）年には26.8%まで高まっています
- 生産年齢人口が減少傾向にあり、地域経済の担い手の減少が懸念されます

生産年齢人口減少

高齢化比率 26.8%

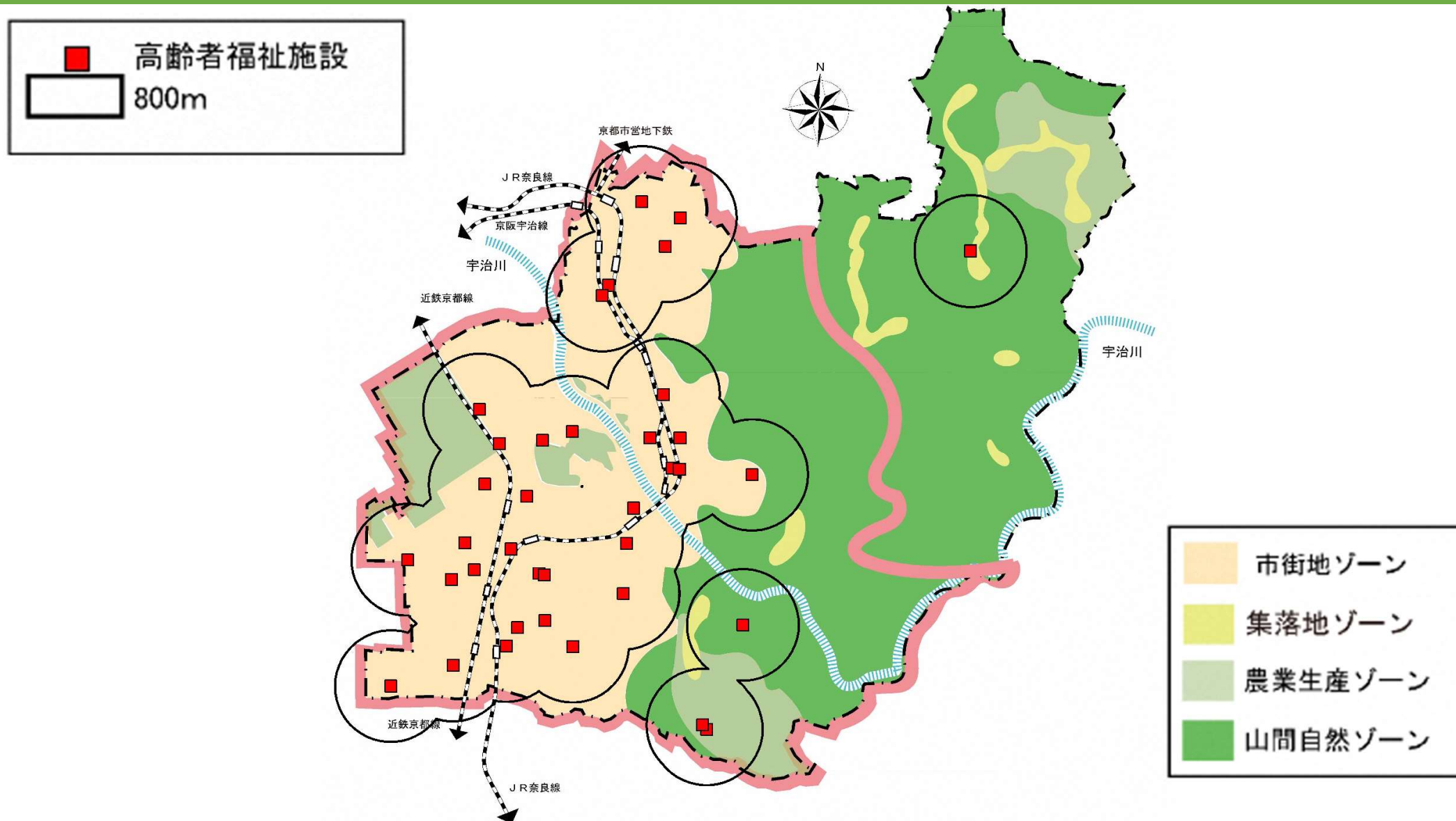


宇治市の現状と課題 ③ 【医療施設の分布】



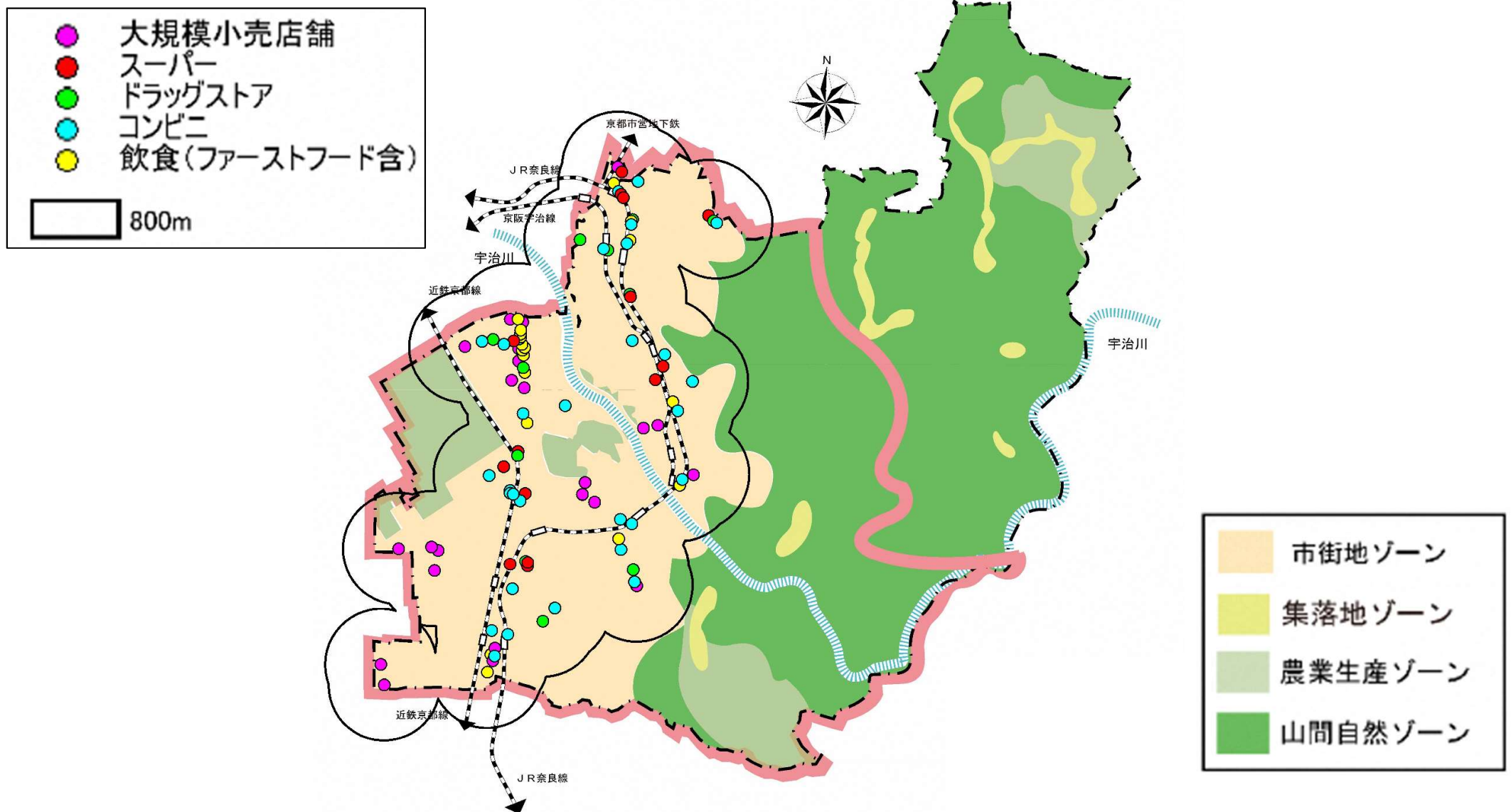
- 現状は施設が市街地を中心に市内一円に配置されています
- 現状は施設の徒歩圏充足率は市街地を概ねカバーしています

宇治市の現状と課題 ④ 【高齢者福祉施設の分布】



- 現状は施設が市街地を中心に市内一円に配置されています
- 現状は施設の徒歩圏充足率は槇島町の一部を除き市街地を概ねカバーしています 6

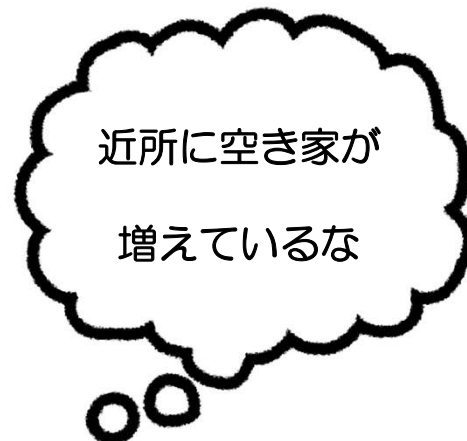
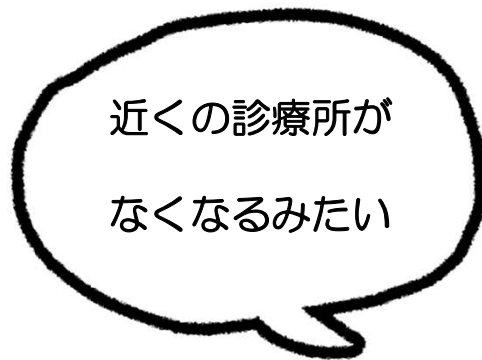
宇治市の現状と課題 ⑤ 【商業施設の分布】



- 現状は施設が市街地を中心に市内一円に配置されています
- 現状は施設の徒歩圏充足率は市街地を概ねカバーしています

今後想定される課題

- 人口が減少していくと、病院やスーパーマーケットなど、生活に不可欠な施設が減ってしまうかもしれません
- 居住や医療・福祉、商業、公共交通などの都市のサービス水準をすべての地域で維持することが困難になってくることが予測されます



これからの都市計画の視点 ①

これまでの都市計画

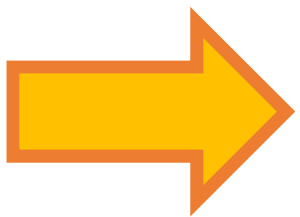
- 将来の都市インフラの需要を予測し、計画的に整備を図ることが必要

◇現状と課題

- 宇治の人口予測として人口は2011 年（平成23 年）をピークに減少→ **人口減少**
- 65 歳以上の高齢者の人口構成比率は上昇、15 歳から64 歳までの生産人口が減少
→ **地域経済の担い手（働き手）の減少**

これからの都市計画

- ☞ 従前から提供されてきた都市のサービスの水準をすべての地域で長期的に現状維持していくことが困難となる予想
- ☞ 交通ネットワーク等を通じて地域と地域が連携・補完し、今あるまちの資源を市民で共有することで市民が享受できる都市のサービスの質を確保・向上させていくことが必要



**成長型社会から成熟型社会へ、
拡大から質の向上を目指す**

これからの都市計画の視点 ②

◇これまでの都市計画（長期的視点）

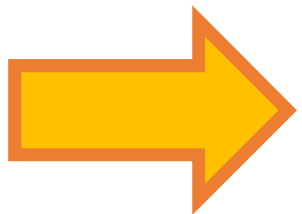
- 概ね20 年後の長期的な将来を見据えた計画として、将来の都市を描くもの

◇現状と課題

- 少子高齢化、気候変動、新型コロナウイルス感染症の蔓延など、生活様式や産業構造などに大きな変化の兆候が見られる。

◇これからの都市計画（適応的な管理）

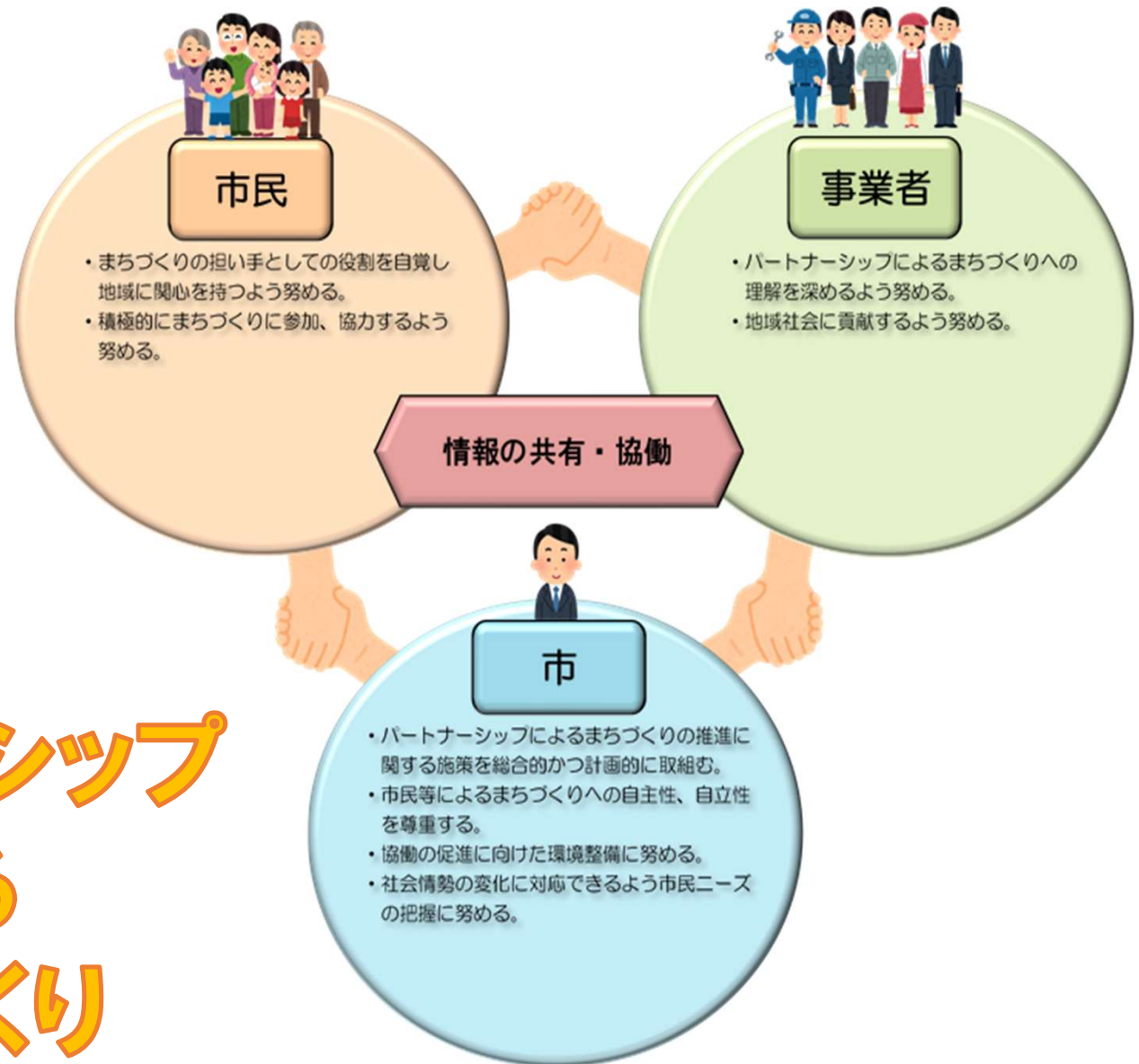
- 長期的に将来を見通すことが極めて難しい状況の中、現時点で考えられる最善の計画とします。
- 環境や社会経済情勢などの変化に適応できるよう、常にその変化を見つめ、変化に応じて機動的に計画の修正を図ることを可能とすることが必要。（適応的な管理）



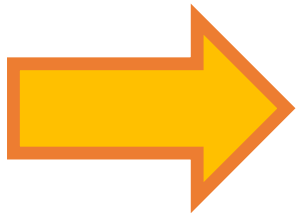
変化に適応できる都市計画プロセス

これからの都市計画の視点 ③

- 市・市民・事業者が、まちづくりのパートナーとして力を結集し、将来のまちづくりの姿を共有しながら、パートナーシップによる都市づくりを進めます。
- 市・市民・事業者がそれぞれの役割を踏まえ、情報を共有し、協働して都市づくりに取り組みます。



パートナーシップ
による
都市づくり



都市づくりの基本目標

宇治らしさを活かした選ばれる都市づくり

- ① 快適に暮らせる市街地を形成し、豊かな自然を保全し、身近なみどりを守ります
- ② 歴史・文化が調和した良好なまちの景観づくりに努めます
- ③ 文化・歴史や茶業など、資源を活用した個性ある都市づくりをめざします

多様な住まい方・働き方を支える都市づくり

- ① 生活利便性の維持向上による質の高い都市づくりをめざします
- ② 地球環境の持続性に配慮した都市づくりをめざします
- ③ 人にやさしく快適な住環境・都市施設を整備します
- ④ 産業の育成による個性ある都市づくりをめざします

総合的に災害リスクに対応できる都市づくり

- ① 安全・安心して住み続けられる都市づくりをめざします
- ② リスク対応型の都市づくりをめざします

地域と地域が相互に連携し支え合う都市づくり

- ① 各地域が連携・補完し、まちの資源を共有できる都市づくりをめざします
- ② 人にやさしく、環境にやさしい交通体系を実現します
- ③ 歩くことが楽しくなる都市づくりをめざします